



令和2年7月10日
統合幕僚監部

令和2年度1四半期の緊急発進実施状況について

1 全般

令和2年度1四半期の緊急発進回数は194回であり、前年度の同時期と比べて52回減少しました。

推定を含め、緊急発進回数の対象国・地域別の割合は、中国機約68%、ロシア機約31%、その他約1%でした。

2 方面隊別の状況

令和2年度1四半期の方面隊別の状況については、北部航空方面隊が55回、中部航空方面隊が4回、西部航空方面隊が33回、南西航空方面隊が102回の緊急発進を実施しました。

前年度の同時期と比べて、北部航空方面隊については緊急発進回数が増加し、中部航空方面隊及び南西航空方面隊については減少しました。なお、西部航空方面隊については昨年度と同数でした。

3 令和2年度1四半期の特徴

中国機に対する緊急発進回数は131回であり、前年度同時期と比べて48回減少しました。ロシア機に対する緊急発進回数は60回であり、前年度同時期と比べて5回減少しました。

令和2年度1四半期は、特異な飛行として計4回公表しました。

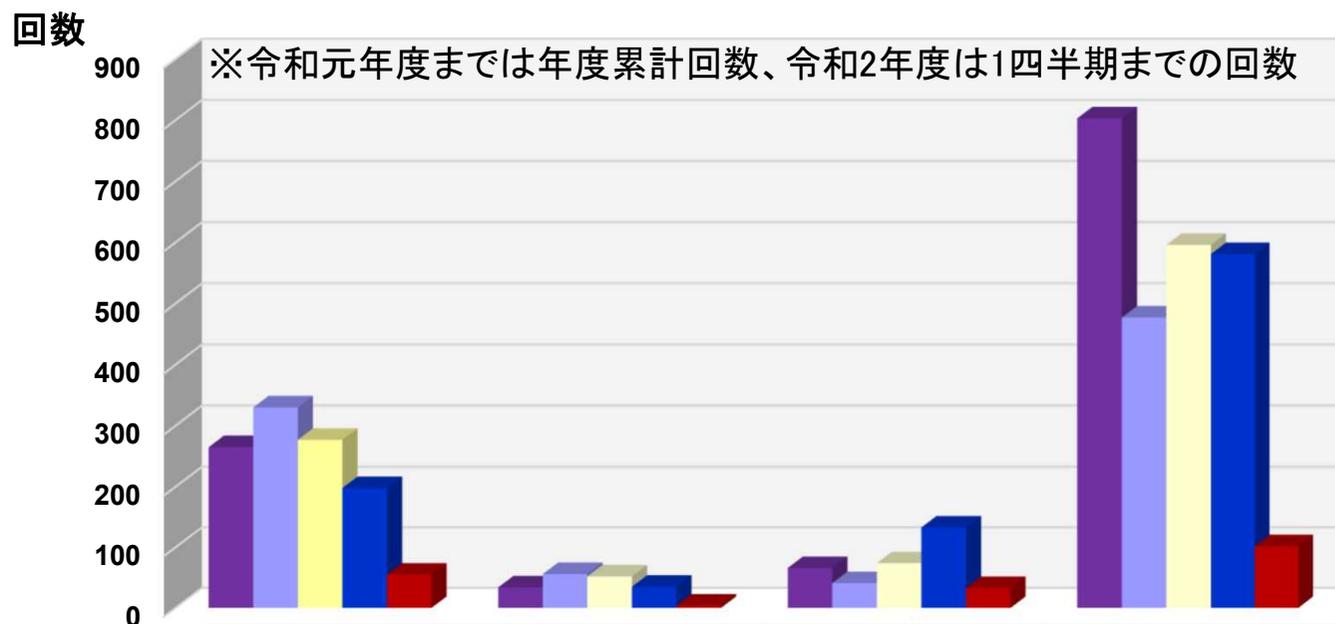
推定を含め、中国機及びロシア機の中では情報収集機に対して多く緊急発進を実施しました。

対象期間は、令和2年4月1日～令和2年6月30日です。

- 添付資料： 1 航空方面隊別緊急発進回数の推移（過去5年間）
2 国・地域別緊急発進回数（過去5年間）
3 緊急発進の対象となったロシア機及び中国機の飛行パターン例
4 令和2年度における特異飛行公表事例一覧（1四半期）
5 年度緊急発進回数の推移

航空方面隊別緊急発進回数の推移(過去5年間)

令和2年6月30日現在



	北空		中空		西空		南西空		合計	
	年度	1四半期	年度	1四半期	年度	1四半期	年度	1四半期	年度	1四半期
■ 平成28年度	265	72	34	5	66	11	803	193	1168	281
■ 平成29年度	330	94	56	26	41	6	477	103	904	229
■ 平成30年度	277	65	52	24	74	12	596	170	999	271
■ 令和元年度	198	41	35	10	133	33	581	162	947	246
■ 令和2年度	—	55	—	4	—	33	—	102	—	194

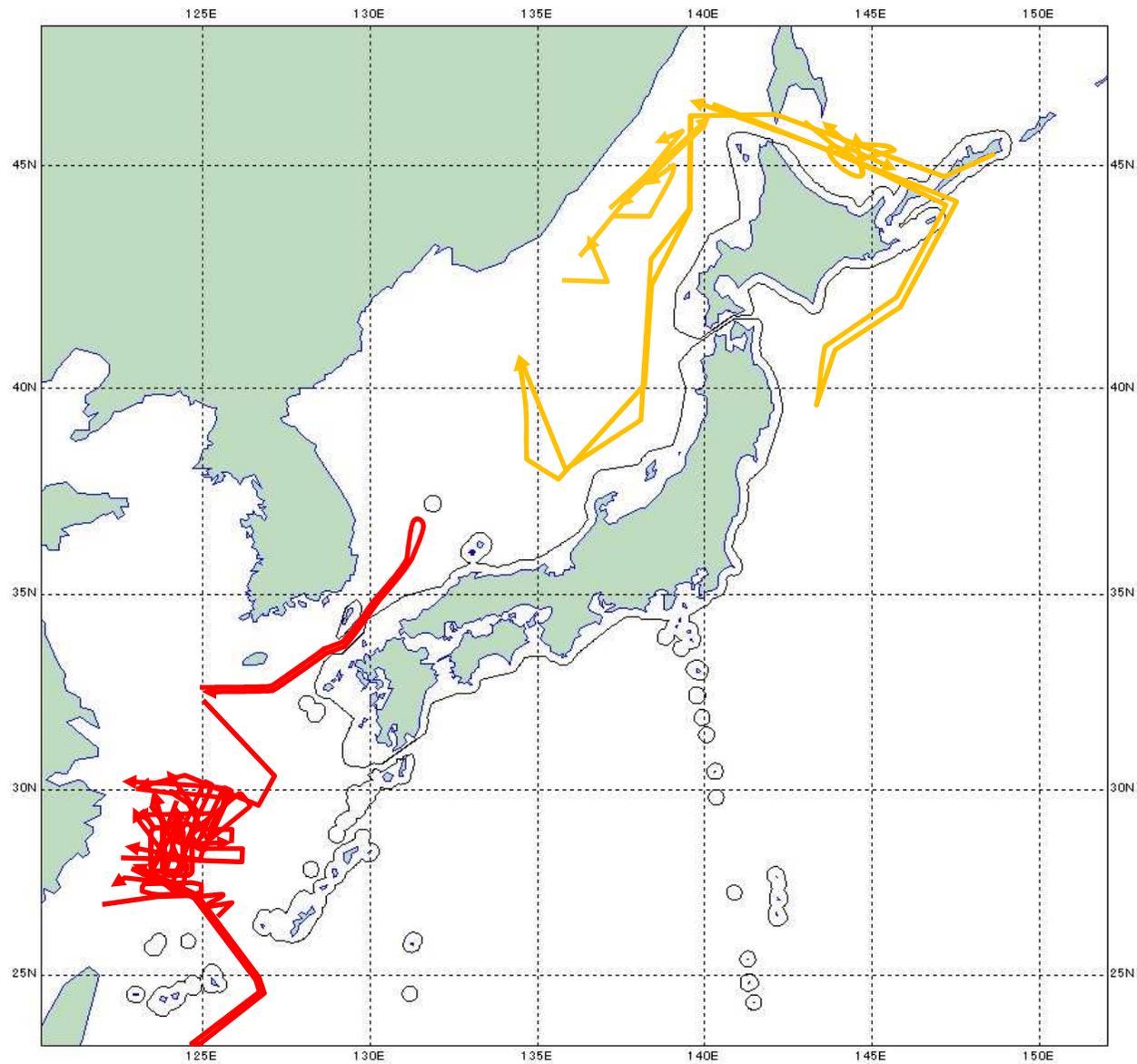
国・地域別緊急発進回数(過去5年間)

令和2年6月30日現在

国・地域 年度	ロシア		中国		台湾		北朝鮮		その他		合計	
	年度	1四半期	年度	1四半期	年度	1四半期	年度	1四半期	年度	1四半期	年度	1四半期
平成28年度	301	78	851	199	8	3	0	0	8	1	1168	281
平成29年度	390	125	500	101	3	0	0	0	11	3	904	229
平成30年度	343	95	638	173	0	0	0	0	18	3	999	271
令和元年度	268	65	675	179	0	0	0	0	4	2	947	246
令和2年度	—	60	—	131	—	0	—	0	—	3	—	194

※ 国・地域は、推定を含む。

緊急発進の対象となったロシア機及び中国機の飛行パターン例



→ : 中国機の経路 → : ロシア機の経路

令和2年度における特異飛行公表事例一覧(1四半期)

公表回数	月 日	対象機の国籍等	行動概要	写真
1	令和2年4月9日(木)	ロシア IL-38 2機	オホーツク海から日本海を長距離飛行	
2	令和2年6月10日(水)	ロシア IL-20 1機	日本海を長距離飛行	
3	令和2年6月22日(月)	中国 Y-9 1機	東シナ海から対馬海峡を通過し日本海を往復飛行	
4	令和2年6月28日(日)	中国 H-6 2機	東シナ海から太平洋を往復飛行	

(参考)年度緊急発進回数推移

令和2年3月31日現在

回数

